

第2分科会のまとめ

平成23年1月19日（水）

平成22年12月26日（日）、みしまコミュニティセンター（コミセン）の施設利用説明会が開催され多くの住民が参加した。説明に対する質疑応答も活発になされ、地域住民のコミセンに寄せる大きな期待が見受けられた。平成23年2月1日から施設利用が開始され、コミセン竣工式を兼ねた「コミセンまつり」が2月6日（日）に実施される。

第2分科会は、平成23年早々のコミセン施設の完成を見据え、「コミュニティセンターを中心としたコミュニティづくりの推進はどうあればよいか」を協議題として検討を重ねてきた。協議の主な内容を記述しまとめとする。

1 主な協議題

- コミセンの整備と施設の有効な活用、コミセンを中心とした他施設（交流センター、みしま会館、体育センター）の一体的な有効活用について
- コミュニティづくりの中核となるコミセン事業・活動の充実について
- コミュニティづくりの中核を担うコミセンの役割とコミュニティづくりのあり方について

2 協議の主な内容

- 「コミセン施設利用案内」の各家庭への配布や施設利用説明会が実施され、施設利用開始に向けた準備が着実に進み、コミュニティ住民の期待も膨らんでいる。コミセンがコミュニティ住民のよき活動の場、よき交流の場として着実に歩いていくことが期待される。今後も「コミセン新聞」の発行や事業案内など広報活動を大切にすること、コミセンや他の施設利用など住民の思いや願いを考慮した運営への努力等を通して、コミセンとコミュニティ住民との交流が深まり、共に高め合う関係が築かれていくことを期待したい。
- 三島コミセンは合併市町村の中の第1号として産声をあげ、コミセンを中核とした地域社会づくり（コミュニティづくり）のスタートをした。合併前は行政（三島町）が中核となり、公民館や諸団体による事業や活動が推進されてきた。今後は地域づくりの中核をコミセンが担い、地域住民が主体となつての地域社会（コミュニティ）づくりを推進していくことになる。合併過渡期ということで、実行委員会方式や公民館からコミセン事業への移行など事業や活動・実施方法の見直し等が進められてきた。少子高齢が進む中、困難は予測されるが、コミセンを生かしたコミュニティの着実な推進のため、今後も事業や活動・実施方法の見直しや改善を進め、住民の理解と協力を得つつ、コミセンを中心とした住民主体の事業や活動の構築に努力を重ねていくことが大切である。
- コミセンを中心とした住民主体のコミュニティづくりを推進するためには、コミセン施設の管理・運営経費の他、事業や活動を推進する予算が必要である。また、コミセン事業や活動の企画・運営・実施には、コミセンを中心としたコミュニティ推進組織が機能することが大切である。過渡期故の難しさを踏まえつつ、事業や活動予算の移行や整備を進めるとともに、住民の理解と協力を得て、コミセンを中心としたコミュニティ事業や活動が推進できる予算の構築を図っていくことが必要である。また、コミュニティ事業の見直しとともに、機能するコミュニティ組織として事業や活動を支援するコミュニティ推進委員会（仮称）を委嘱していくことなども今後の課題となるものと予測される。※（従来の事業実施における区や町内への協力人数要請等を見直していくことも今後の課題として。）コミセンを中心としたコミュニティづくり推進のため、見直しを明確にした努力を期待したい。
- コミュニティ事業補助金やふるさと創生基金事業は三島の各事業地域の文化や歴史・自然の発掘や保存・創生に寄与し、事業地域の活性に効果的であった。コミセンを中心としたコミュニティづくり（地域社会づくり）の推進は永続性のある長期にわたる地域社会作りである。三島地区には17の集落がある。三島コミュニティの推進は各集落の歴史や文化等を尊重しつつ、コミセンを中心としたコミュニティづくりを長期にわたり推進していくことになる。「三島でのコミュニティの原案」（H18）の活動目的として地域力の向上・地域の教育上の向上・元気な健康力の向上・防犯防災力の向上が掲げられている。コミセンを中心としたコミュニティづくりは三島コミュニティの将来像を描きつつ、三島地域として、住民主体としての事業や活動を創生・構築しつつ永続的で着実な努力を大切に推進していきたい。